

砂漠緑化にご尽力されている皆様へ。

日本で排出される古フトン/畳/古着を利用した、部分緑化のフラッシュアイデア レポート

【ステップ】

現在、不燃ごみとして、廃棄されている古フトン/タタミを回収(自治体のリサイクルセンターや、古着回収日など)を利用、もしくは関連NPOなどに働きかけ/フトン販売業者(通販業者など)に販売時、古品買取回収(補助金利用なども検討)集積場に集める。

↓

古着などをアフリカに送るルートを利用し輸送(空のタンカーなどに乗せ、無料・安価に輸送できるルートアリ)

↓

砂漠まで輸送し、

↓

一番下にビニールシート、(ナイロン/ ポリエステル製の古着などでも可)

フトン・砂・フトン・砂・フトン というように、三枚ぐらい砂を挟みながら重ねて、苗床にします。

(このとき、水分を投入すると、ジェル状になる粉を適量f
挟み込み、保湿を高める案も有効。)

↓

地下からくみ上げた水(塩水の場合は)蒸留を毎日定期的
に散水し、3年ぐらいかけて、堆肥化させてゆきます。

(Warka Water(ワルカウォーター などでも可 大気中から水が作れる、竹製の装置。
大気から、1日100リットル蒸留水を確保。)

ある程度の乾燥でも、土壌の保湿が可能であれば、砂
を培養土に変換することが可能です。

ビニールハウスにして、極端な乾燥を防ぐなども有効。

大きい面積を一度に緑化するというアイデアではなく、
フトン単位面積で、コツコツ、土壌改善を図り、広げてい
くという考えです。

思いついたので、何か、役に立つ活動につながる可能
性もあると考え、手紙をお送りすることにしました。この
アイデアは、皆さままでご自由にご利用ください。

.....

私は、小学生時代から、砂漠化した土地が緑化できれば、CO2の問題や、砂漠化の農地転用による、餓死者の減少などが実現できるって考えていて、、、、(皆さんもそうでしょうけど、、)嫌まあ、当時(40年前)は、夢のような話でしたけれども。現在の科学やテクノロジーで、何故、実現できないのか？と疑問も持ち続けていました。

先日、放送大学を見ていて、砂漠の地下水をくみ上げると、塩水だという情報が加わり、事情が納得できました。

水を汲み上げても塩水だと、植物は育ちませんから。

ここで必要なことは、汲み上げた水を淡水に蒸留する装置と、乾燥した土壌を保湿するという二点。

土地柄、太陽エネルギーや地熱を利用すれば、水分の蒸留はそんなに難しくないはずです。

現在では、Warka Water(ワルカウォーター / 大気中から水が作れる、竹製の装置。1日100リットル摂取可能な地域も。)利用という考えもあります。

地面の保湿に、古着や古寝具、畳を使うスタディをするというのはどうでしょうか。廃棄する古着/フトン/畳を何層にも重ねて、砂とサンドして、そこに、蒸留した水を撒き続ければ、植物は育ちます。間に、水分を与えるとジェル状になる粉を挟んでも良いと思います。

木綿のフトンや畳床であれば、いつか、土に戻ると思うし、ポリやナイロンの古着などを間に挟むことによって、土台の劣化を遅くできる可能性もある。最初は、下草のような、カンタンな植物が勝

手に生えてきて、3年ぐらいで、段々土壌が育つはず。人糞を投入/雑草/。乾燥に強い農作物で試作するのも実現可能な範囲と
考えます。

井戸を掘る(地下二キロぐらい)コストと、蒸留する装置が、ちょっと高い可能性があるので、土壌は、畳一畳ぐらいの可動式にして、
人力で動かすか、もしくは、散水の範囲を、広範囲にできるような
設計に、あらかじめしておくことが必要だと考えます。

最初の蒸留・散水プラントで、農作物ができたなら、それを現金化し
て、次のプラントを増やす。そういう提案であります。

水を汲み上げる段階で、大きな問題は、地下に岩盤があり、掘削
に巨大な資金が必要となる場合もありますが、地質学者などの
情報や、今であれば、ロボットや超音波などでも地層のチェックが
できるはずですので、協力しあうことも大切。可能性は広がって
いると思う。

砂の保湿が、廃棄物のリサイクルで補えれば、今は、燃やしてい
る co2 も節約できますしね。(*°▽°*)ノ

日本は、古着王国なので。毎日ゴミ置き場を眺めて、何かに
利用できないかをずっと考えていました。

砂漠/乾燥地の緑化に取り組んでいらっしゃる皆様に感謝申
し上げます。

地球の緑化が進みますように、願いを込めて。

b y おじゃら りんご (2020.6.)